

～「おおいそ」で彼らに何を残すか～

おおいそ学園副園長（兼）生沢分校教頭
小 島 元

120 年を超える歴史の中の、「おおいそ」の 1 年がまた始まりました。令和 6 年度も桜花咲きほこる春が過ぎ、スポーツに汗と涙を流す夏、そして半年が過ぎ、収穫をともに喜ぶ秋を迎えています。

ここでは、子どもたちの顔ぶれはつねに入れ替わっていきます。子どもの措置期間は 1 年程度、状況によりさまざまです。一般の中学校の 3 年という期間の中で育てたい子ども像を定め、学習面と生活面から支援を行うことに比べると、時間的制限は大きいと感じます。

そんな児童自立支援施設で、学園や分校の職員として彼らに残してあげられることは何だろうか。今春赴任したばかりの私は、漠然とこんなことを考えていました。しかし、しばらくするとそういった心持ちも変化してきたことを覚えています。

毎日の分校の授業では、教員だけでなく学園職員が一緒になって学習を支援します。複数の大人による手厚い指導に、スポンジが水を吸いこむように学習に取り組む子どもいます。授業参観では、そんな我が子の姿に涙腺を緩ませる保護者、それを見つめて私も胸が熱くなる思いがしました。

部活動では、夏に行われる 2 つの野球大会は特に素晴らしかった。結果うんぬんよりも、汗にまみれて真剣にスポーツに取り組む子どもたちの姿、それを見て感動しない大人がいるのでしょうか。

中学 3 年生の修学旅行にも同行してきました。定番の金閣寺、清水寺などどこでも子どもたちは嬉しそうに笑顔をみせ、京都タワーからの夜景には感動の声を上げていました。

他にも農園作業や各種行事など、「おおいそ」の日常生活の中には、子どもたちにとって初めての経験や喜びが数多く設けられています。

「おおいそ」では、それぞれの子どもが自らの課題を自覚、枠のある生活と学習の中で改善し、自立につなげていく。実際は深刻な課題を抱えて入園してくる子どもたち、簡単に成長が現れるわけではありませんが、ここには寝食を共に親代わりになって粘り強く支援する福祉職員、学ぶ喜びを伝えたい教職員、さらには心理職員をはじめ様々な面からサポートする職員がいます。

ここではなんら気負うことなく、この地で長く培われた支援のしかた、つまり日々子どもに愛情を持って接すること、多くの成功体験と感動体験を与えてあげること、そして何よりもここで過ごしたことを人生の良き思い出にしてあげること、それらを彼らの心に残すことができれば、子どもたちは自立へ向かって歩き始めるのでしょう。

皆さま、これからも「おおいそ」の子どもたちへのご支援、ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

～小学六年生修学旅行～

小学部 6 年生で 1 泊 2 日の修学旅行へ行きました。

10 月 10 日(木)は、上野動物園、国会議事堂、浅草へ行き、葛西のホテルで宿泊、10 月 11 日(金)は、ディズニーシーへ行きました。

1 日目は、上野動物園にいたシロクマなど様々な動物を興味深く観察し、動物が動くたびに興奮していました。国会議事堂では、国会の解散翌日に参観したため、議員さんの名札が立てかけてあり、子どもたちは「〇〇議員(の名札)だ」と言って喜んでいました。浅草では、外国人の多さに圧倒されていました。夕食はもんじゃ焼きをみんなでつつきながら美味しく食べました。

2 日目は、ディズニーシーへ行き、動きの激しいジェットコースターに乗って嬉しそうでした。

小学部主任 迫田

～中学一、二年生遠足～

10 月 11 日(金)に鎌倉方面へ行ってきました。

今回は、北鎌倉駅で下車し、建長寺、圓應寺、鶴岡八幡宮を散策しました。それぞれの場所はグループごとに事前に調べ学習を行い、皆の前で発表会も行ったので、見たことのある建物や景色を目の当たりにして楽しそうに散策することができました。最後は小町通りで思い思いのお土産を買って帰ってきました。

天気にも恵まれ雰囲気良く過ごすことができ、マナーも素晴らしく、一人一人の成長を感じる遠足となりました。

中学部 1, 2 年主任 仲條

～中学三年生修学旅行～

中学 3 年生の修学旅行は、10 月 10 日(木)から 1 泊 2 日で京都へ行きました。

初日は、北野天満宮、金閣寺、南禅寺、清水寺、京都タワーといった名所をバスでまわり、2 日目は、太秦映画村を楽しみました。荘厳な雰囲気の内見を見学したり、抹茶に舌鼓を打ったり、忍者屋敷を探検したりと京都を堪能しました。また、公共交通機関やホテルでのマナー、集団活動をする上での大切なことなど、普段の生活ではなかなか学べないことを学び、充実した修学旅行となりました。

中学部 3 学年主任 内田

～関東少年文化祭～

11 月 8 日(金)、千葉県で関東少年文化祭が開催され、学園では大道芸(ディアボロ)の披露を行いました。ディアボロとは中国ゴマで、お椀を 2 つ重ねたようなものがコマ本体となり、2 本のハンドスティックの先に付いたひもで回転させることで、コマを安定させて操ります。

児童は、夏休み開始から本格的に練習に取り組みました。経験者も中にはいましたが、大半が未経験でのスタートとなりました。初めは、職員が手本を示しながら様々な演目を行い、丁寧に指導してきました。誰もが苦戦するのが「加速技」です。加速はとても大切で、安定すると技の成功率が一気に上がります。「マジ無理」「なんでディアボロやんなきゃいけないんだよ・・・」等、ネガティブな言葉も多く聞かれました。しかし、寮職員、分校の教職員が協力して教えていくことで劇的に上達した児童もできました。

本番当日では、大きなステージに立つこと自体に緊張を感じ、日頃の成果が出せなかった児童もいました。しかし、一人ひとりがとても良い表情で、お辞儀を含め堂々と演目を披露することができました。これを機に、児童が自信を持って人前で披露する楽しさ、特技が増えた実感等を味わうことができたのなら、児童自立支援施設の職員としての本望です。児童の向き合う姿、周囲の大人の協力に感謝致します。ありがとうございました。

梅寮 松本



～関東少年卓球大会～

12 月 4 日(水) 埼玉県で関東少年卓球大会が開催されました。

今年度は前回大会で成し遂げることが出来なかった”団体戦優勝”を目標、そしてスローガンとして掲げ練習を重ねてきました。大会前日には、全児童、学園職員、分校教諭の前でキャプテンが抱負を語り、多くの人たちの応援を背にして大会当日を迎えることができました。

バスの中でもおおいそ節である「礼儀・挨拶・マナー」について副キャプテンが声をかけ、チームの意識づけに貢献してくれました。

試合結果は、団体戦三位、個人戦五位、個人ダブルス準優勝と目標には届きませんでしたが、子どもたちの心に残る白熱した試合と仲間を思いやる声かけは、どの学園にも勝るものでした。

桂寮 山岸

～収穫祭～

11月23日(土)、気持ちの良い秋空の下、第43回収穫祭を行いました。3年間コロナ禍で中止、令和5年度から農作物販売を再開、今年度は模擬店も再開し以前に近い形で実施しました。

児童は順番に所属寮の販売店に立ち、初めは遠慮がちに小さな声でしたが、徐々に大きくなり、呼び込みや自分たちの育てた野菜の説明などし、人と接する楽しみを実感できたのではないかと思います。販売や児童アトラクションでは、児童は活き活きとした入所前とは違った姿を家族、関係機関職員見せることができました。また児童OB、職員OBの来園も多数あり、あちこちでミニ同窓会が起こり昔話や現況報告に花が咲かせていました。児童の頑張りや大勢の来園者で活気のある収穫祭になりました。

地域支援グループ 床井



～児童福祉施設駅伝大会～

11月16日(土)、県児童福祉施設駅伝大会が開催されました。

今年の陸上部は去年以上に練習の熱量が高く、切磋琢磨し合いながら本番に臨みました。寒暖差の激しい日が続きましたが、当日の天候は「晴れ」で、走るには丁度良いコンディションでした。

大会前日に体調を崩す児童がおり、チームとして万全とはいきませんでした。当日は一人ひとりがモチベーション高く、力を出し切りました。2.4kmを走り抜け、みんなそれぞれが良い表情でたすきをつなぎ、一生懸命な姿がみられてよかったです。

梅寮 玉置



【編集後記】

今回紹介したどの行事も、新型コロナウイルス感染症が流行する前の状況で開催されました。その中で子どもたちは、日頃から学園で実践している「礼儀、挨拶、マナー」がしっかりと発揮出来ていました。(広報委員会 一同)